IXC

変更別リグレッションテスト範囲決定ワークブック

変更の影響候補から実行・除外の根拠まで

導入の判断と実行のためのIXC実務資料

2026.09 発行 · 日本語版 · PDF + Excel記入様式

この資料の活用

一つの変更について、選ぶ回帰テストと除外理由、未検証条件を記録します。

回帰範囲を決めるQAリーダー、開発責任者、製品企画担当者

目次

01 変更前後と判断の対象を固定します 3

02 直接の変更範囲の外にある影響候補を探します 4

03 範囲の段階と拡大根拠を残します 5

04 三つの架空の変更を比較します 6

05 選定と除外をテスト単位で書きます 7

06 実行結果をリリース判断に渡します 8

記入と活用

PDFの基準を読み、空欄に実際の条件と未確認の項目を記入します。同じ部門のExcelには資料ごとの記入シートがあります。記入例は、実際の顧客事例や確定した見積もりと区別してお使いください。

出典を明記すれば、社内検討と業務遂行のために引用・改変してご利用いただけます。最新のファイルは www.ixc.co.kr/ja/assets でご確認ください。

変更前後と判断の対象を固定します

まず、何がどのような理由で変わったのかを書きます。コードの行数だけで実行範囲を決めず、利用者の行動と権限、データ、外部連携で変わるルールを確認します。複数の変更をまとめた場合は、各変更番号と、共通して影響を受ける境界をつなぎます。

変更検討の概要

項目	記録内容	参照・担当
変更番号・理由		
変更前後の要求・バージョン		
ビルド・テストの対象バージョン		
利用者・権限・データへの影響		
外部連携・設定の変更		
リリースの制約・検討担当		

> **記入例の範囲**
>
> この資料の変更事例は、範囲選定の練習のための架空の事例です。実際の顧客の変更やテストの実行結果ではありません。例の選択をそのまま適用する前に、自社の要求とコード・設定への影響を確認する必要があります。

今回の検討の結果は、実行するテストと除外理由です。テストを選んだことは合格を意味せず、リリースの承認でもありません。範囲が決まった後、実際の実行番号と結果をリリース判定メモにつなぎます。

直接の変更範囲の外にある影響候補を探します

変更した画面や関数から始めて、共通モジュールと呼び出し元、権限ポリシー、保存データ、外部の利用先まで確認します。テストが要求にリンクされていても、現在のバージョンのリンクかどうかを検討します。影響がないという判断も、確認したコード・文書・担当者の回答として残します。

影響候補の検討表

影響候補	接続・変更の根拠	確認する失敗境界	検討結果・担当
記入例：共通の文書権限	同じポリシーを使う閲覧・ダウンロード	他の役割・組織の文書へのアクセス	直接の変更範囲外の候補として含める

候補を探す方向	確認する資料
要求からテストへ	変更要求・ケース・欠陥のリンク
実装から利用者へ	呼び出し元・役割・機能の経路
データから利用先へ	保存規則・閲覧・エクスポート
設定から共通経路へ	環境の差異・共有設定・外部連携

リンクがないという理由だけで、影響がないとは判断しません。まだ確認できていない依存関係は未確定とし、担当と確認時点を決めます。トレーサビリティの検討は候補を探す段階であり、候補のうち何を実際に実行するかは次のページで決めます。

範囲の段階と拡大根拠を残します

実行範囲は、影響の到達範囲、変更の不確実性、失敗の結果と統制可能性を併せて見て決めます。小さな権限の変更でも、複数の主要フローに及ぶなら範囲を広げます。低リスクの項目の数で、重要な拡大根拠を平均して弱めません。

範囲の段階	適用を検討する状況	実行範囲の説明
Focused	影響が独立した境界に収まる	変更したフローと確認済みの隣接経路
Expanded	複数の役割・連携・データ利用先に及ぶ	影響を受ける接続と失敗境界
Broad / Release-level	共通ポリシー・主要な境界に広く及ぶ	リリースの重要なフローを併せて確認

範囲決定の記録

検討軸	確認した根拠	選んだ段階・理由	未確定・次の確認
到達範囲			
変更の不確実性			
失敗の結果			
検知・切り戻し			

> **範囲の段階でテストの件数が決まるわけではありません**
>
> Broadも、すべてのテストを無条件に実行するという意味ではありません。重要な失敗境界を広く確認しつつ、関連性が低く除外した項目には理由を書きます。実行する余裕が足りない場合は、範囲を低い段階に付け替えず、未検証条件として残します。

三つの架空の変更を比較します

以下の事例は、変更の行数ではなく影響の境界で範囲を選ぶ記入例です。各事例には、すでに確認したと仮定した条件があります。その条件を確認できていない実際のプロジェクトでは、同じ段階をそのまま選ぶことはできません。

架空の変更	確認済みと仮定した境界	選定例	除外・残る確認
A：共通の文書権限	閲覧・検索・ダウンロードに同じポリシーを適用	Broad / 役割・組織の境界を含む	独立した統計画面は接続なしを確認して除外
B：エクスポート項目の追加	ファイルを二つの利用先が読む	Expanded / ファイル・両利用先を確認	利用先一覧が未確定なら保留項目
C：独立した表示文言の修正	識別値・保存値・共通ロジックは変更なし	Focused / 表示・隣接操作を確認	決済・権限は接続なしの根拠を記録

> **記入例の判断：Aの変更が一行でも**
>
> 共通ポリシーを呼び出す箇所が複数ある以上、一つの画面の正常動作だけで検証を終えません。役割と組織の境界を越える閲覧、検索結果、ダウンロードを候補に入れます。実際に実施したかどうかと結果は、実行後に別途記録します。

Bで利用先一覧が古い場合や、Cで文言が業務コードとしても使われている場合は、仮定が崩れます。範囲決定の記録を開き直し、追加の影響候補を検討します。例の範囲の段階よりも、判断に使った条件が自社の状況と同じかを確認することが先です。

選定と除外をテスト単位で書きます

範囲の段階を選んだら、実際のテスト番号まで落とし込みます。選んだ理由と除外した理由を同じ表に書き、まだ決められていない候補を区別します。環境を準備できなかった項目は、関連性がなく除外した項目と分けます。

実行・除外の決定表

テスト・候補	選定・除外・未確定	判断根拠	実行準備・担当
記入例A：別組織の文書閲覧	選定	共通権限ポリシーの直接の影響	組織別アカウントの準備
記入例A：独立した統計文言	除外	ポリシー・データとの接続なしと仮定	実際の接続の確認が必要

> **時間不足は除外根拠と区別します**
>
> 主要な権限シナリオのアカウントがなく実行できない場合は、関連性が低いとは書きません。必要なアカウント、解決担当、次の確認時点を記録し、未検証リスクをリリース担当に伝えます。

以前に欠陥を見つけたテストや実際の利用フローも、選定根拠になります。ただし、過去の履歴がないというだけで、リスクが低いとは判断しません。一緒に実行して初めて意味を持つ連携とデータの状態を確認し、複雑な画面テストをより適切な層で確認できるかも検討します。

実行結果をリリース判断に渡します

選定表が完成したら、実行環境と実行回、結果の所在をつなぎます。ビルドや要求が変わったら、どの選定根拠が変わったのかを見直します。結果を記録する担当とリリースを承認する担当を分け、計画だけでリリース可能な状態と表示しないようにします。

実行・再検討の引き継ぎ表

選定テスト・実行回	ビルド・環境・実行番号	結果・欠陥・未検証	次の確認・担当

再検討が必要な変化	立ち戻る記録
ビルド・要求・設定の変更	変更概要と影響候補
新しい依存関係・欠陥の発見	範囲の段階と選定・除外の理由
アカウント・環境の準備遅延	未検証条件と実行日程
実行完了・修正確認	結果表とリリース判定メモ

PASS・FAIL・BLOCKED・NOT RUNは、実際の実行記録に使います。リリース会議で使うREADY・READY WITH CONDITIONS・HOLDは、合意基準と結果、未検証範囲、残存リスクを検討した別の判断です。IXCと範囲を相談するときは、変更一覧と現在のテストケース、未確定の依存関係、リリース制約を併せて準備します。

IXC

発行・ご利用について

変更一覧と現在のテスト、未確定の影響とリリース制約をもとに、実行する範囲と判断根拠を一緒に決めます。

IXC Corp.（アイエックスシー）

代表取締役 ナム・ギチョル | 事業者登録番号 109-86-56732
大韓民国 江原特別自治道春川市後石路462番キル7
春川ICTベンチャーセンター4階408号
+82-33-242-0210 | info@ixc.co.kr

www.ixc.co.kr

www.ixc.co.kr/ja/services/qa-process-consulting

www.ixc.co.kr/ja/assets/regression-scope-workbook

参考資料

IXC：回帰テストの範囲はコード変更量ではなく何で決めるべきか

https://www.ixc.co.kr/ja/insights/risk-based-regression-testing-scope

IXC：要件が変わるときテストの抜けを減らすトレーサビリティ設計

https://www.ixc.co.kr/ja/insights/requirements-test-traceability

ISTQB CTFL v4.0.1：回帰テストと影響分析

https://istqb.org/wp-content/uploads/2024/11/ISTQB_CTFL_Syllabus_v4.0.1.pdf

IXC QAプロセス構築

https://www.ixc.co.kr/ja/services/qa-process-consulting